

南海トラフ地震を想定した防災訓練を実施します(報道公開)

名古屋高速道路は、愛知県及び名古屋市の地域防災計画において救援物資などの輸送を担う第一次緊急輸送道路に全線が指定されていることから、南海トラフ地震など大規模災害の被災時には、迅速かつ確実な道路機能の応急復旧が求められます。

今般、被災時における対応力の向上を目的として、災害時に使用する特殊機材を用いた道路啓開の実践的な防災訓練を実施しますので、お知らせします。



《ジャッキによる放置車両移動》



《軽量スロープによる段差応急復旧》

1. 日 時

2025年8月28日 (木) 10:00~11:00

2. 場 所

名古屋高速道路公社 船見基地 (名古屋市港区船見町1番地の128)

3. 訓練上の想定及び訓練概要

南海トラフ地震が発生し、一般車両が放置されている状況や道路損傷(路面の段差等)が発生している状況を想定します。

訓練は職員及び維持業者等が特殊な資機材を使用して、放置車両の移動及び伸縮装置部に生じた段差等を解消し、緊急車両の通行ルートを早期に確保するまでの応急復旧作業を実施します。[詳細は裏面参照]

4. 訓練参加者

名古屋高速道路公社、交通管理隊、スバル興業(株)(土木維持業者)

5. その他

実働訓練の当日取材をご希望の方は、8月27日(水)15時までに広報課(TEL:052-919-3236)までご連絡ください。

防災訓練の概要

訓練内容

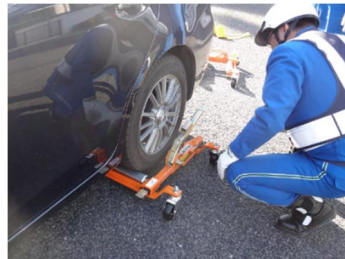
ジャッキによる放置車両移動

放置車両が緊急車両の通行を妨げている状況を想定し、これを解消するために限られたスペース内で作業をすることができる特殊なジャッキを使用します。

各タイヤに1台ずつジャッキを設置し車体を路面から浮かせ、車両を人力で移動させます。



《ジャッキ（機械式）》



《ジャッキ設置》



《車両移動（2024 年度）》

○重量：約 20 kg／台 ○対応可能車両：約 3 t 車まで

軽量渡し板・軽量スロープによる開き・段差応急復旧

桁と桁の間には伸縮装置がありますが、伸縮装置部に生じた段差・開きにより車両が通行できない状況を想定し、これを解消するため、“人力で速やかに運搬・設置が可能”な軽量渡し板、軽量スロープを使用します。

＜軽量渡し板＞



《設置状況》

- 重さ
約 30kg/枚
- 規格
FRP 製（せん維強化プラスチック）
- 通行可能車両
大型車両 10 t 車程度まで

＜軽量スロープ (EPS スロープ) ＞



《設置状況》

- 重さ
約 30 kg／部材
- 規格
発泡ポリスチレン
- 通行可能車両
大型車両 10 t 車程度まで

＜EPS フラットブロック＞



《設置状況》

- 重さ
約 17 kg／部材
- 規格
発泡ポリスチレン
- 通行可能車両
大型車両 10 t 車程度まで
- 軽量スロープと組合せて使用

○訓練の実施場所

名古屋高速道路公社 船見基地（名古屋市港区船見町1番地の128）

